

鷹栖市街地活性化推進事業

1. 背景、目的

第8次総合計画 分野横断的な重点施策（4）「市街地エリアの魅力づくり」

- 子育て世代の定住促進
- 中心市街地の賑わい
- 多世代交流の促進
- 高齢者が住み続けられる市街地形成

2. R2年度事業経過

鷹栖市街地の将来像・課題等の洗い出しを行うための、住民・職員WSを実施。

内 容	住民ワークショップ	職員ワークショップ
10/23（金） 事前勉強会（住民・職員合同）	<ul style="list-style-type: none"> ・目的、経過説明 ・講演「鷹栖町の未来を考える」 （講師：北方建築総合研究所副所長 松村 博文氏） 【参加者：住民23名 職員13名】 	
第1回ワークショップ 「市街地の将来像を考える」	10/30（金） 【参加者21名】	10/30（金） 【参加者14名】
第2回ワークショップ 「市街地の将来像の具体化」	11/11（水） 【参加者22名】	11/20（金） 【参加者12名】
第3回ワークショップ 「実現方策の具体化」	12/2（水） 【参加者15名】	12/7（月） 【参加者14名】
第4回ワークショップ 「意見のまとめ」	—	1/6（水） 【参加者15名】

※住民ワークショップは一般住民、商工事業者、関係団体（JAたいせつ、社会福祉法人さつき会、社会福祉法人鷹栖共生会、鷹栖町商工会）が参加

3. ワークショップで出された鷹栖市街地の将来像（抜粋）

<p>【世代を超えたつながりのあるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者等がごちゃ混ぜで交流や生活役割をもって活動ができるまち ・誰もがつながり、安心してくつろげる、寄り道できるようなまち 	<p>【車がなくても歩いて楽しく生活できるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外で歩くのが楽しいまち ・運転できない人が買い物できるまち ・放課後に学生が出歩いているまち
<p>【自分の役割持ち、活躍できるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を持ち、暮らす人々が輝くことのできるまち ・誰もが活躍できるまち ・プチチャレンジできるまち 	<p>【子育てするなら鷹栖町と言われるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が安心して暮らせ、リフレッシュできるまち ・最高の子育て環境、教育環境があるまち ・若者が未来に希望を抱けるまち
<p>【人口減少に負けないコンパクトなまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどのことがその場所で完結する複合施設を中心としたコンパクトなまち ・ICTやIoTを最大限活用したまち ・人口減少に適応し、持続できるまち 	<p>【誇りのあるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民みんなで作る統一感の取れたキレイなまち ・市街地に賑わいがあり、地元野菜や食材を利用した市場や飲食店があるまち

4. 事業展開イメージ

■令和2年度

- ・鷹栖市街地の将来像と課題等の洗い出し
→ワークショップによる意見聴取【R2.10~1月】
- 関係団体（JAたいせつ、社会福祉法人さつき会、社会福祉法人鷹栖共生会、鷹栖町商工会）との意見交換【R3.2~3月予定】



鷹栖市街地の活性化に向けた方向性の整理

⇒R2年度成果報告会【R3.3~4月予定】

■令和3年度

- ・令和2年度の成果を基に基本構想、基本計画の策定作業
→住民、商工事業者、関係団体によるワークショップ、フィールドワーク、先進地視察、講演（勉強）会、トライアル事業等の実施



鷹栖市街地の活性化に向けた基本構想・基本計画策定

■令和4年度～

- ・基本構想、基本計画に基づく実践

5. 予算額【2,646千円】

まちづくり手法に明るい事業者に業務委託し、事業の企画運営、基本構想、基本計画策定の支援をいただく。

⇒成果品として、市街地全体の将来像を描いた構想、パース（ビジュアル）を作成

経費内訳	金額
旅費（先進地視察）	71千円
消耗品費（フィールドワーク・ワークショップ用）	20千円
食糧費（ワークショップ参加者用）	30千円
委託料（鷹栖市街地活性化推進支援委託）	2,500千円
施設使用料（ワークショップ会場使用料）	25千円